

3. 議事

(2)各地の事例紹介

サイクルツーリズムの取り組み (つくば霞ヶ浦りんりんロード)



○サイクリングを核に筑波山や霞ヶ浦などの豊かな地域資源を結びつけ、東京圏からの優れたアクセス性を活かしながら、誰もが多様にサイクリングを楽しむことができる、日本一のサイクリング環境の構築を目指す。

快適で安心安全にサイクリングができる環境の整備

○サイクリングロードの整備

- 『水郷筑波サイクリング環境整備事業自転車走行環境整備ガイドライン(2016.10策定)』に基づき、全線に矢羽根等のコース案内や注意喚起のための路面表示を2020年度までに設置予定。
- 未舗装区間2箇所(L=2.06km)については、河川管理者による堤防かさ上げに合わせ、2018年度までに舗装を整備する予定。



(路面表示施工例) (コース案内) (注意喚起)

<ガイドライン>

- コース案内は青色と黄色による統一的な配色を使用
- 16種類のコース案内と、14種類の注意喚起を規定

<ガイドラインの一例>

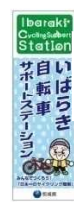
サイクルツーリズム推進のための取組

- 自転車サポートステーション、優待サービス等の拡充
- 多様なニーズに応えられる広域レンタサイクルシステムの構築
- 食や祭り等と組み合わせた国内外からのサイクリングツアーの実施
- 地域の魅力を活かしたサイクリングイベント等の開催
- 情報発信(ロゴ、イベント出展等)
- サイクリング拠点施設「りんりんスクエア土浦」の整備【2018.3.29開業】



広域レンタサイクル(2018.9現在)
貸出施設(10箇所)
貸出自転車(スポーツバイク106台)

ロゴ入りノベルティを活用した
情報発信



自転車サポートステーション
(308箇所:2018.9現在)

りんりんスクエア土浦
茨城県が主体となって、土浦市と連携し整備した全国初の
鉄道駅直結サイクリング拠点
「りんりんスクエア土浦」
(2018.3.29開業)



つくば霞ヶ浦りんりんロード
自転車利用者数(人)
2020年(目標) 約10万人

2016年 約5.5万人
2015年 約4.8万人



サイクルツーリズムの取り組み（びわ湖一周サイクリング（ビワイチ））

○琵琶湖を中心に滋賀県全体を「サイクリングランド」と見立て、多様な旅行者が県内各地を安全に自転車で周遊できる環境を構築 → 地域活性化へつなげる

安全で快適な自転車走行環境の構築

○自転車走行環境整備（青矢羽根・路肩拡幅・案内表示）

- ・2015年より自転車走行環境整備を実施中
- 青矢羽根の整備：約116km整備済（2018.9）
- 路肩拡幅の整備：14か所、約3.0km整備済（2018.9）



矢羽根設置例

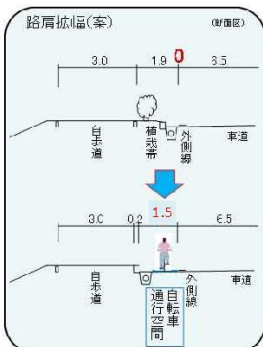


路肩拡幅の整備例

- ・案内表示の整備
- コース上5km毎に距離標を設置
- 分岐点には案内看板を設置（2002年設置済）



案内看板設置例



植栽帯を活用した空間創出イメージ

自転車観光の推進のための取り組み

- サイクルサポートステーション整備、レンタサイクル拠点整備
- 自転車搭載船の運行（湖上交通の活用）
- 「ビワイチ」ツアーの造成にむけたトッププロモーション、ファミツアー
- 「ビワイチ」ツアーガイド養成などおもてなし人材の育成
- 情報発信（WEB、アプリ、イベント出展等）

※自転車で琵琶湖一周する「ビワイチ」のほか内陸部へ県内各地を周遊する「ビワイチ・プラス」を核に自転車観光を推進することで、滋賀県の認知度向上や交流人口の増加を図り、地域活性化につなげていく

※河川管理者も連携して取り組む（管理用通路活用によるビワイチ「よしみちコース」の整備）



湖上交通活用例
（守山市 漁船タクシー）

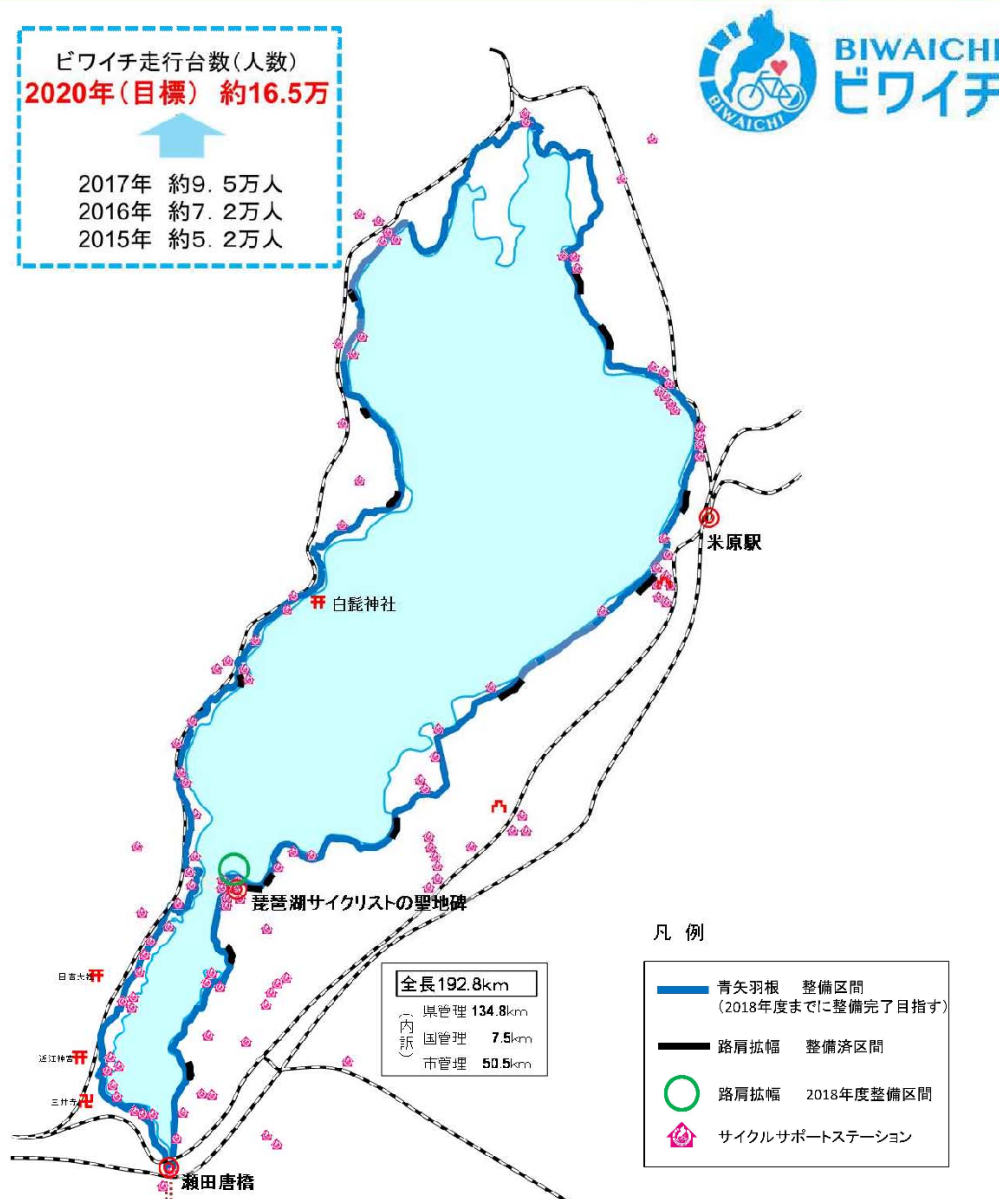
レンタサイクルの拠点整備
（米原駅サイクルステーション）



サイクルサポートステーション
（トイレ・ポンプ貸出、休憩所等）
294箇所・2018.7現在）



マップ（日・英・中（繁）3言語版を作成）



- 凡例
- 青矢羽根 整備区間 (2018年度までに整備完了を目指す)
 - 路肩拡幅 整備済区間
 - 路肩拡幅 2018年度整備区間
 - サイクルサポートステーション

滋賀県作成資料

サイクルツーリズムの取り組み（瀬戸内しまなみ海道）



○瀬戸内海の島々が織りなす絶景を望む、日本初の海峡を横断する自転車道として、官民一体となり、サイクリングの利用環境向上の取組を継続的に推進し、更なるブランド力の向上を図る

快適な自転車走行環境の構築

○自転車走行環境整備（ルートの明示・案内表示）

- ・ 車道の路側に推奨ルートを明示するブルーラインと距離標の路面表示を整備
- ・ 2017年7月19日より自転車通行料金の無料化を実現
- ・ 料金所で一旦停止する必要がなくなり、利用環境が格段に向上



ブルーライン・距離標設置例



ルート表示設置例



受入環境向上のための取り組み

- 地元との協働による休憩スポット・修理ポイントの整備
- 自転車を直接持ち込めるサイクルバス、サイクリトレインの運行
- 全国初のサイクリスト専用ホテルがオープン（2014.6）
- 民間企業の協賛によるセーフティマット・広告看板の設置
- 国際サイクリング大会の開催（2014・2016・2018）
- 米国CNN「世界7大サイクリングルート」に選定（2014.5）



サイクルオアシス（休憩スポット）約150箇所2018.9現在



しまなみサイクリトレイン（JR四国）



ONOMICHI U2（サイクリスト専用ホテル）

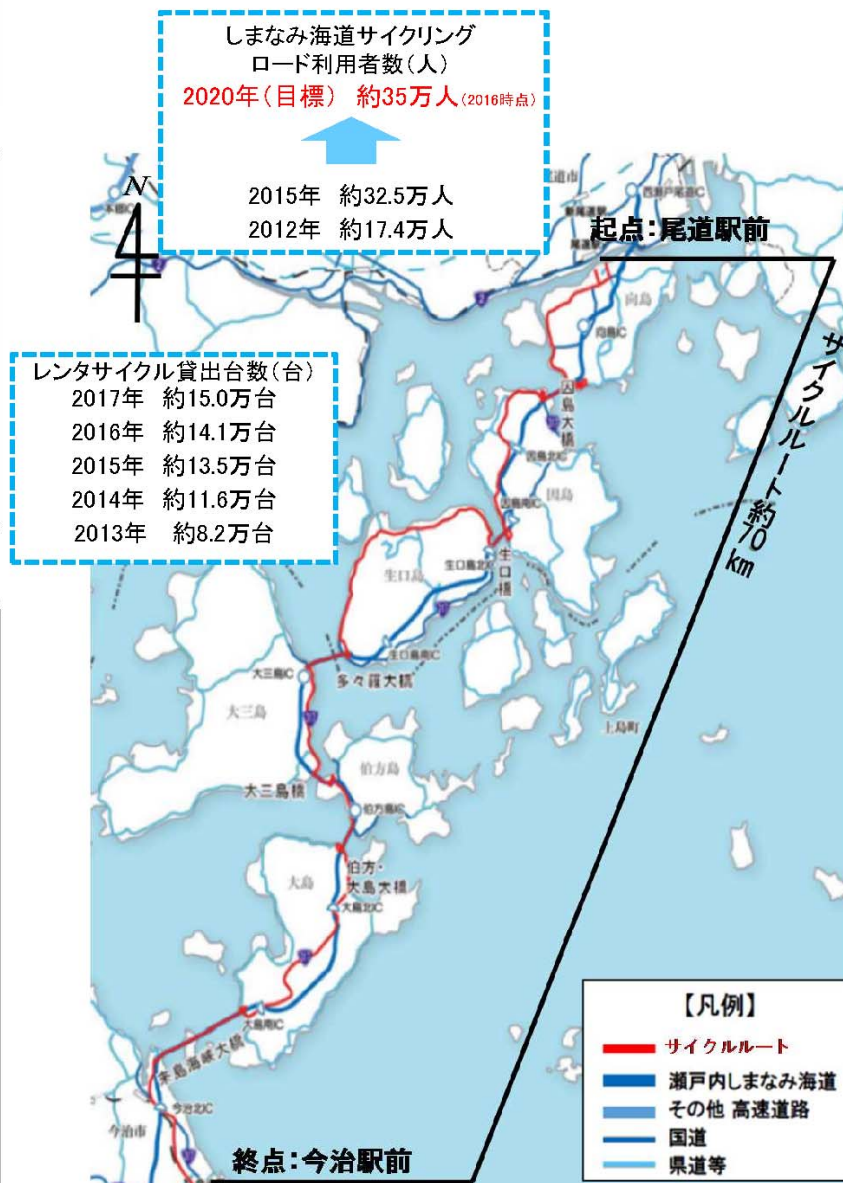


企業協賛によるセーフティマット設置等（45社協賛）

＜サイクリングしまなみ＞
2018年参加者：7,215人
（うち海外：26の国と地域から701人）



CNN「世界7大サイクリングルート」



愛媛県提供資料を基に作成

サイクルツーリズムの取り組み例－ルート設定



○歴史・文化・自然等、地域の個性を感じることができるルート設定。

■魅力創出をテーマとしたルート設定

▼四国一周サイクリングルート(四国四県)

- サイクリストのニーズにマッチしたサービスを提供できるよう、実走調査やホテル・立ち寄りスポット等の調査・検証を踏まえ、魅力創出をテーマとしたルートを設定



写真：四国一周サイクリングホームページ



写真：愛媛県(右4枚)

■震災復興をテーマとしたルート設定

▼ツール・ド・東北(岩手県・宮城県三陸地域)

- 津波の被害を受けた沿岸地域を含む、最大210kmのルートを設定



写真・資料：ツール・ド・東北公式HP

■地域資源を活かしたサイクリングルート設定

▼いしかわ里山里海サイクリングルート

- 日本の原風景ともいわれる能登半島の棚田「白米千枚田」や、車両走行可能な砂浜「千里浜ドライブウェイ」をサイクリングルートに組み込み



写真：石川県

▼メイプル耶馬サイクリングルート

- 岩肌が特徴的な古羅漢を望む、特徴的な渓谷風景を通るサイクリングルートを設定



写真：大分県

サイクルツーリズムの取り組み例 – 走行環境整備



○路面表示等による歩行者や自動車との通行空間の適切な分離や、ルート案内表示を充実させ、安全・快適な自転車の通行環境の確保。

■ 矢羽根整備

▼トカプチ400(北海道)

- ・ 自転車事故の危険が高いトンネル前や急カーブの手前等を中心に、矢羽根を設置



写真:北海道開発局

▼ピワイチ(滋賀県)

- ・ ピワイチ約193kmのうち車道部100kmについて矢羽根を設置



写真:滋賀県

■ ルート・案内表示の設置

▼淡路島一周サイクリングルート(アワイチ:兵庫県)

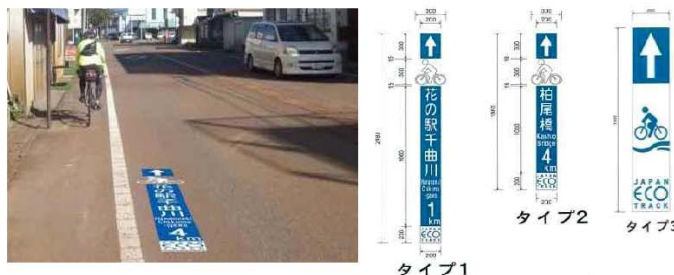
- ・ 10kmごとの距離表示や、坂道などの注意サインを設置



写真・資料:兵庫県

▼いいやまサイクルツーリズム・モデルコース(長野県)

- ・ 飯山市内のサイクルルートにルート案内表示を設置
- ・ 次のポイントまでの距離・方向を示すタイプ、進行方向を示すタイプなどサイクリストが迷わず走れるサインを設置



タイプ1

タイプ2

タイプ3

写真・資料:飯山市

▼奈良まほろばサイクリング(奈良県)

- ・ 統一したデザインによる案内誘導により迷わず安心して走行できる環境を整備、また注意喚起の看板を設置

<ルート案内>



<注意喚起サイン>



写真・資料:奈良県

▼愛媛マルゴト自転車道(愛媛県) (宇和海しおさいオレンジ輪道)

- ・ インバウンドのサイクリストの利用を想定し、注意喚起表示に多言語での表示を実施



写真:愛媛西伊予・大分中部地域間交流促進協議会

サイクルツーリズムの取り組み例－魅力



○各地域特有の体験テーマを持つイベント等を実施。

■日本らしさをテーマとしたガイドツアー

▼SATOYAMA EXPERIENCE(岐阜県飛騨市)

- ・ 里山で地元の人々が暮らしている空間をツアーガイドの先導により訪問
- ・ 日本らしさを感じられるツアーとして、外国人からの人気が高い



写真：飛騨市公式観光サイト

▼金沢サイクリングツアー(石川県金沢市)

- ・ 直江谷の雄大な自然を楽しみつつ、ガイドや地元の方から歴史などの説明を受けながら走ることができる



写真：金沢市

■復興支援イベント

▼ツール・ド・東北(岩手県・宮城県三陸地域)

- ・ 参加者は、走行管理ライダーのガイドに従ってグループで津波の被害を受けた海岸を走り、復興の様子を感じるとともに、東北の風景や食を楽しむ
- ・ 震災復興伝承館の見学等のイベントが盛り込まれている



写真：ツール・ド・東北 公式サイト

■散走をテーマとしたツアー

▼真庭で散走サイクリング(岡山県真庭市)

- ・ 「自転車で走ることが目的ではなく、自転車を利用して見たり、食べたり、探したりすることを目的とした新しい自転車の楽しみ方」として「散走」を提案



資料：真庭市

サイクルツーリズムの取り組み例 – 情報発信



○ サイクリストにとって必要な情報をWEBサイトやSNS、マップやスマートフォンアプリ等を活用して提供。

■ ポータルサイトの開設

▼ 四国一周サイクリングルート(四国四県)

- ・ サイクリストのニーズに応えるオールインワンポータルサイトを開設



資料: 四国一周サイクリングホームページ

■ SNSの活用

▼ メイプル耶馬サイクリングロード(大分県中津市)

- ・ SNSでの情報発信を条件とした、「春の耶馬溪を駆け抜けようSNS発信インフルエンサー」を開催
- ・ 耶馬溪関連のハッシュタグをつけて情報発信

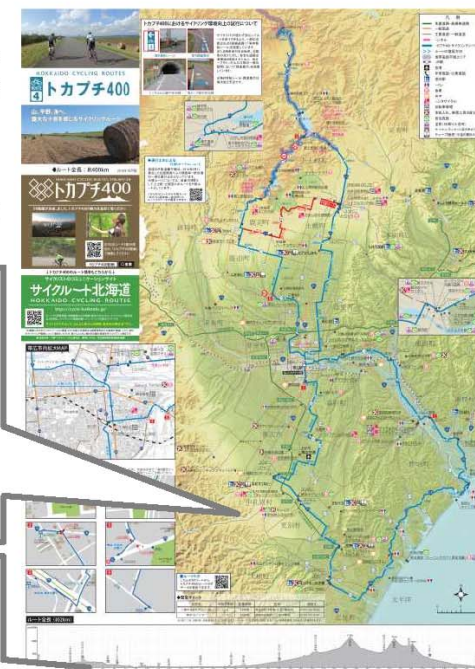


写真: 大分県

■ サイクリスト目線でのマップ等の作成

▼ トカプチ400(北海道)

- ・ サイクリストが求める情報(勾配(高低差)、立ち寄りスポット、休憩施設など)を網羅したマップを制作
- ・ サイクリストに使いやすいサイズ(折りたたむとサイクルジャージに入る大きさ(約14cm×7cm≒スマートフォンサイズ))や汗・雨等を考慮した耐湿性のある紙(撥水加工紙)を採用するなどサイクリスト向けにこだわっている



資料: 北海道開発局

■ サイクリングマップと連動したアプリ配信

▼ 奈良まほろばサイク∞リング(奈良県)

- ・ サイクリングマップの配布と合わせて、マップ上で現在地を確認できるWebアプリを作成
- ・ ルート、休憩施設、見どころ、危険箇所等の情報を確認可能



資料: 奈良県



サイクルツーリズムの取り組み例 – 受入環境



○ルート上のサイクリング拠点となる施設の充実、サイクルトレイン等による自転車を持ち込みやすいアクセス環境、宿泊施設等、訪れる人に質の高いサービス・サポート体制を提供。

■休憩・サポート施設の整備

▼トカプチ400(北海道)

- ・ 既存の道の駅等へのサイクルラック等のサポート設備の設置
- ・ ルート上に新たにサイクリスト専用の拠点施設を整備



写真:北海道開発局

■宿泊者施設の整備

▼ WAKAYAMA800 (和歌山県)

- ・ 自転車宿泊者のための設備が充実した「サイクリストに優しい宿」を認定し、来訪者の宿選択をフォロー

<認定条件(下記全て必須)>

- ・ 「自転車を組み立てた状態で、客室への持ち込みが可能」もしくは、「自転車を組み立てた状態で、一般客の立ち入らない施設可能な場所(バックヤードや倉庫・車庫等)で保管が可能」
- ・ 「スポーツバイク対応の空気入れ」及び「修理工具」の貸出
- ・ 手荷物一時預り(チェックイン前/チェックアウト後)
- ・ 宅配便(自転車を含む)の受取・発送サービス

※認定者は和歌山県および和歌山県観光連盟



認定プレート



南紀白浜リゾートホテル



富士屋



サンセットすみ

写真:和歌山県

■アクセス・自転車の持ち込み環境の整備

▼サイクルトレインB.B.BASE(千葉県)

- ・ 千葉県とJR東日本とが連携し、サイクルトレイン「B.B.BASE」の運行を実施
- ・ 東京の両国から千葉県各地へ向け運行



資料:千葉県



▼淡路島一周サイクリング(アワイチ:兵庫県)

- ・ 明石淡路島間の航路は2010年に休止となったが、淡路市が自転車が積載可能なフェリーの造船・航路の開設を行い、2015年から運行開始
- ・ 定期旅客船の一月あたり自転車積込み数が2015年から2016年にかけて1,833台から2,576台と増加し、交流人口の増加、淡路島の魅力・認知度アップに寄与



写真:兵庫県

サイクルツーリズムの取り組み例 – 取組体制



○官民連携して取り組み、サイクリストのニーズに応える、インバウンドにも対応した質の高いサイクリング環境を創出する継続的な取組体制を構築。

■官民で構成するマネジメント組織の設立

▼伊豆市自転車まちづくり協議会

- ・「伊豆市自転車まちづくり計画 アクションプラン」に基づき、官民多様な主体による着実な取り組みを実施する協議会として設置
- ・市が運営支援を行い、民間事業者・行政・市民が連携して取組を実施
- ・市内の旅館や商店・交通事業者と連携して「伊豆市自転車まちづくりサポーター」制度を創設し受け入れ環境整備等を実施



写真・資料：伊豆市自転車まちづくり協議会

■海外都市との協力

▼四国一周サイクリングルート(四国四県)

- ・海外都市と協定を締結し、サイクリングによる交流や協力関係を推進
- ・両地域におけるサイクリストに向けたPR活動に加え、相互訪問を促すため、交流提携の締結、訪問団の派遣を行っている
- ・双方の学生交流による連携やイベントへの参加、訪問ツアーの実施、相互PRなど様々な連携による観光振興や国際交流につながっている



写真：愛媛県

■民間事業者への協力の呼びかけ

▼四国一周サイクリングルート(四国四県)

- ・サイクリングアイランド四国推進協議会(事務局：愛媛県自転車新文化推進課)が、サイクリストへおもてなしを提供できる企業や飲食店等を募集し、「おもてなしサポーター」として認定
- ・認定された事業者は、四国一周サイクリングのサポーターとしてサイクリングアイランドのHPに掲載



写真：愛媛県

<おもてなしの例>

- ◆宿泊施設等：建物内で自転車保管 空気入れ・工具等を常備 等
- ◆飲食店等：飲食代割引、ドリンクサービス
- ◆観光施設等：入館割引、温泉優待券、お土産配送割引 等